

## 告 辞

本日、東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程を修了し、晴れて博士号を授与される皆さん、おめでとうございます。本学教職員一同を代表し、心よりお祝い申し上げます。こうして無事修了式を迎えることができたのは、もちろん皆さん一人一人の努力の結果ではありますが、同時にご家族、ご友人その他関係者の方々の有形無形の暖かいご支援があったからでもあるはずです。その方々に恩返しをするような気持ちを持ち続けて今後の人生を歩んで行ってほしいと願っています。そして本日一緒に巣立つ生物生産学専攻1名、生物生産科学専攻8名、応用生命科学専攻4名、環境資源共生科学専攻9名、農業環境工学専攻3名、農林共生社会科学専攻1名、論文博士3名、計29名は、これからお互いの人生の良き仲間、共に困難に立ち向かうパートナーとなり、切磋琢磨するライバルとなる人たちです。この大学で培った関係を長く暖め、大事にしていきたいと思います。

学長という立場でこの数年、皆さんのような意欲と希望に溢れた若き研究者を世に送り出すにあたって、様々な国の様々な人の言葉を借りて告辞を述べてまいりました。しかしひとつひとつの言葉は違っても、その根底には一貫して伝えたい強い思いがあります。それは、これからの『行動』こそが最も重要であるということです。今まで積み重ねてきた知識や育んだ頭脳を皆さんの頭の中だけで完結させてはなりません。それらを実際の世の中でいかに役立てるかを考えて実行することが大切なのです。自分たちの研究が今現在苦しんでいる人々を助け、後世が心身ともに幸せに暮らせる世界となるよう、古今東西の研究者は全精力を傾けて困難と闘い障壁を乗り越えてきまし

た。これからは皆さんもその一人として積極的に行動を起こしていただきたい。私たち科学技術に携わる者の真の使命と喜びは、真理を追求することはもちろんですが、それだけではなく社会への貢献、人類の未来への貢献にあるということ、どうか忘れないで下さい。そのためには周囲の状況を常に敏感かつ広範に把握・認識し、社会の需要に即応する柔軟性が求められます。また必要に応じて従来の考え方や枠組みから脱して新しいものを自ら作りあげる創造性、そして何より自分自身の力とより良い未来を信じて追究し続ける強い精神力もなくてはなりません。特に皆さんが専攻した農学分野は、環境・資源・食糧のいずれの側面から見ても、人類の健康的な存続に最も直接的に係わる学問分野です。世界各地が不安に揺れる今、皆さんは人類が抱える様々な危機を救い自然と調和した平和的・健康的に持続発展可能な社会を創るために何をいかに為すべきかを、その知を最大限に活かして考え、実行し、成功へと導くいわば先導者として、国内のみならず国際社会を牽引し大きな役割を果たすよう期待されています。その期待に応えるための基盤となるのが、皆さんがこの数年間ここで鍛えられて獲得した知識や技術、そして様々な経験なのです。東京農工大学は創基以来140年、長い歴史と伝統を引き継ぎながら、グローバルに展開する最先端科学技術研究の開発推進とグローバル・イノベーション・リーダーの育成に力を入れ常に進化し続けてきた大学です。中でもこの連合農学研究科は茨城大学及び宇都宮大学と大学の枠組みを超えて連携し、各々の研究の特性を活かし、また補いつつ、より洗練された実効性に富んだ最前線の農学研究へと発展させるために創設された非常に特色ある大学院となっています。そのような研究科で培われ磨かれた能力と受け継いだ精神は、皆さんの将来の様々な局面できっと大いに役に立つでしょう。どのような環境でも、きっと存分に力を発揮し活躍できるはずです。

自信を持って新しい世界に飛び込み、今の気持ちを忘れずに前へ進み続けて、もっともっと自分を高めて下さい。そして、皆さんの若い力で世界を動かして下さい。

次に皆さんにお会いする時には、さらに成長した頼もしい姿を見ることができると期待しています。そして本学も皆さんの母校として誇れる心強い基柱となるよう、またいつでも皆さんのお手伝いが最高の形で出来るよう、色々な挑戦的取り組みやグローバル・イノベーションを推進して、世界認知される実力ある大学づくりに一層の努力をしてまいります。これからも同窓会活動やそれぞれの仕事を通して互いの交流が有意義に深まること願い、そして最後にもう一度皆さんの今後のご健闘・ご活躍を心よりお祈りし、告辞とさせていただきます。

平成 27 年 3 月 16 日

国立大学法人東京農工大学長 松永 是